

平成30年度 授業改善推進プラン 学年メモ

図画工作

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
一年	○粘土や工作などの創作活動は好きが、絵画には苦手意識をもつ児童がみられる。 ○はさみ、のりなど用具の使う時に、手を十分に働かせることのできない児童がいる。	○はさみ、のりなど用具の使う時に、有効的な指導が不十分である。	○はさみ、のり、折り紙の折り方などを楽しみながら練習し、持ち方、使い方、適量の出し方などを指導する。	○身近な材料や用具を、必要なときに、正しく使えるようにする。 ○生活の中で、はさみやのりなどを使う機会を適宜設定する。	○全児童が、用具の使い方を覚え、用具の特性を考えて作品作りを楽しむことができる。	
一二年	○ほとんどの児童がのり・はさみ・の基本的な使い方はできているが、課題によって定着できていない部分もみられる。 ○絵の具については、基本的な使い方を学習し始めている。	○絵の具やのり・はさみの基本的な使い方を造形活動を通して、楽しませる工夫が足りない。 ○豊かな造形活動ができるようにいろいろな材料との出会いを有効に活用することが課題である。	○興味・関心を引き出せる題材の工夫をする。 ○ <u>新聞紙などを使った造形遊びを取り入れて材料に親しむ活動をする。</u>	○紙版画を通じて、描画との違いを伝え版画の良さを伝える。 ○身近な作品と触れ合い、感じたことを少人数で伝え合う機会を作る。	○基本的な用具を自分が思うように使えるようになり、楽しんで活動ができる。	
三年	○基本的なことが定着してきていて、意欲的に取り組んでいる。 ○興味・関心はあるが、自己中心的になってしまい約束を守れない児童がいる。	○安全に授業を行うために担任と協力して指導にあたる必要がある。 ○カッターナイフやかなづちなどの道具を安全に正しく公平に使えるよう、十分注意していく。	○ <u>道具を正しく使うことでできることが広がり、楽しさを味わえるような題材を設定する。</u>	○新しい用具や材料を使うことで、自分の表したいことを変化させたりひろげたりさせる。 ○身近な作品と触れ合い、感じたことを少人数で伝え合う機会を作る。	○どの児童も材料や用具の特性を生かし、自分の思いを工夫しながら表現活動ができる。	
四年	○全体的には意欲・関心をもって、はじめのある態度で授業に臨めるようになってきたが、支援の必要な児童がいる。	○意欲的に新しい道具や材料を使って活動はしているが、自分の表したいことをもてない児童がいるのでイメージが広がっていくような支援が必要である。	○自分のテーマをはっきりもたせて制作に入るようにする。制作途中でも友達と作品を見合う機会を取り入れて、 <u>あとに続く制作</u> に生かせるようにする。	○彫刻刀を使っての木版画の体験を通して、版画の良さを伝える。 ○友達の作品を鑑賞し、良いところを伝え合う活動をする。	○どの児童も材料や用具の特性を生かし、自分のテーマに基づいて工夫しながら表現活動ができる。	
五年	○ほとんどの児童は落ち着いて活動ができています。友達と協力して取り組む姿もみられる。 ○自分の思いをもてる児童は多いが、それを表現につなげるのが難しい児童もいる。	○電のこなどの数少ない道具を使う場合、人数が多いので待ち時間や場所の問題が課題である。	○課題のめあてを明確にした上で、いくつかの発展例を表示したり、制作途中の友達の作品見合ったりすることで、表現の幅を広げるようにする。	○クロッキーの活動を取り入れ、集中力を身に付けながら表現できるようにする。 ○友達の作品を鑑賞し、良いところを伝え合う活動をする。	○課題から自分の表したいことをみつけ、伸び伸びと表現活動ができるようにする。	
六年	○人数は少ないが個性的な児童が多く、表現力も様々である。 ○自信がもてない児童もいる。	○自分の思いがうまく表現出来ない時に心を閉ざしてしまったり、教師に頼りすぎたりする児童の対応が課題である。	○ <u>いくつかの発展例を表示したり、制作途中の友達の作品見合ってコミュニケーションすること</u> で、自分の表現の幅を広げるようにする。	○クロッキーの活動を取り入れ、集中力を身に付けながら表現できるようにする。 ○友達の作品を鑑賞し、良いところを伝え合う活動をする。	○課題から自分の表したいことをみつけ、伸び伸びと表現活動ができるようにする。	